

編集後記 寿岳文章を中心とした寿岳一家の文化的形成を追究するNPO「向日庵」の活動も三年目をむかえ、新たな展開を見せようとしています。

昨年の晩秋、寿岳文章先生の旧宅「向日庵」の現所有者のご好意により、初めてのリサーチが敢行されました。参加したのは向日市文化資料館の王城玲子氏と里見徳太郎氏、高木博志氏(京都大学人文科学研究所教授)、伊部京子氏(和紙造形家)、中島俊郎(甲南大学名誉教授)の5名でした。

往時をしのばせる端然とした向日庵のなかでも先生の書齋は姿をかえず私たちのまえにありました。弟子のおひとりは「森のような」と書籍が満ちあふれるこの書齋を称しましたが、その形容は正しいでしょう。先生のご関心の在り方が手にとるように分ります。先生ご自身の著書、柳宗悦をはじめとする著名人からの寄贈本の数々、先生が資料とされた文献類が整然と並んでいます。リサーチの目的は貴重な原資料を散逸させずに向日市資料博物館へ移し、保存することにあります。

第一資料として、時代の証言となる膨大な量に及ぶ寿岳先生への書簡類、若き日から綴られた日記、メモ類、知的源泉となった書籍の購入台帳原簿、先生ご夫妻が執筆された新聞、雑誌の記事などのスクラップ・ブック、草稿の未定稿、民藝運動の全貌をしめす『工藝』全巻揃えなど、いずれも初めて見るものばかりで瞠目の想いがありました。これらの原資料をもとに新しい寿岳文章像が提示される日も近いと信じます。貴重な資料を死蔵させることなく、その一部を『向日庵』次号から開示・紹介していきたいと予定しています。

今後の講演会のテーマとして、「ダンテ『神曲』翻訳」、「仏教と寿岳文章」、「柳宗悦の思想」、「聴竹居と向日庵」、「翻訳者としての寿岳しづ」、「ウィリアム・モリスと寿岳文章」、「河上肇と寿岳文章」、「『紙漉村旅日記』を読む」、「寿岳章子、寿岳潤の業績」などが候補としてあがっています。どうかご期待下さい。ご希望のテーマがございましたら事務局までお寄せ下さい。なお、寿岳文章の英文学者としての苗床となった関西学院文学部英文科の教育環境を論じた関西学院大学前学長の井上琢智氏の講演記録は次号に掲載されます。

もうひとつよろこばしいご報告があります。和紙研究でたえずご指導いただいている、同人の伊部京子氏が2019年度、京都市文化功労者の表彰に浴されました。寿岳先生がご存命ならばどんなに喜ばれたことでしょうか。心からお慶びを申しあげます。

私たちの活動にたえずご支援を賜っています皆様方に謝意を表したく存じます。また講演会のためご尽力を惜しまなかった皆様、会場を貸与して下さいました関係者の方々に感謝申し上げます。また本誌の発行については「京都府文化力チャレンジ補助事業」の助成を受けていることを感謝とともに明記しておきたく存じます。

特定非営利活動法人向日庵理事長 中島 俊郎